



野村志津江
のむらしずえ
公明党
(50分)



ふくやま実験フェスは

問 今年度から本市の課題解決に向けた実証実験として開始された。この事業の中でコミュニケーションロボットを使った買い物を行っているが、その具体と取り組み状況は。

答 卓上ロボットを使った実証実験は、商業施設が少ない郊外の団地に住む高齢者の買い物支援をテーマに公募したものである。ロボットに話しかけ商品を注文すると、音声情報が文字データに変換され、店舗に情報が届いて注文された商品が配送される仕組みで、インターネットの利用が難しい人でも簡単に買い物ができることが特徴である。今後は、



コミュニケーションロボット

事業者において利用状況などを分析の上、実装について検討する。

*その他、みんなで創る世界バラ会議福山大会とばらのまちづくり、放課後児童クラブの運営について質問しました。



奥陽治
おくようじ
公明党
(50分)



松永地域のスポーツ施設の整備は

問 施設などの現状と今後の方向性は。

答 松永健康スポーツセンターは、供用開始後34年が経過し、近年はプールの底板や天井の改修などを行っている。整備の具は（仮称）スポーツ施設再整備計画で定めていきたいと考える。

また、西部多目的広場は、スポーツを含む、より幅広い用途での使用に向け条件などを整理している。



西部多目的広場

子どもの虐待事案は

問 ①本市における虐待事案の件数は。②東部子ども家庭センターとの連携は。

答 ①2022年度の相談通告件数は123件で、全国と同様に過去最多である。②定期的に会議を開催し支援状況の確認などを行うほか、学校等の関係機関と役割分担して課題の解決に向け福祉サービスを活用するなど効果的な支援につなげている。



皿谷久美子
さらがいくみこ
公明党
(45分)



身寄りのない高齢者への支援は

問 ①孤独死の状況と今後の対応策は。②横須賀市では、住み慣れた地域で最期まで安心して暮らせるよう見守りや安否確認に加え、葬儀や家財処分などのサービスを行なっている。本市の考えは。

答 ①本市が把握しているのは毎年10件程度である。今後も1人暮らし高齢者の増加や地域との関係性の希薄化を背景に増加するものと危惧している。このため、民生委員が自宅を訪問し安否の確認をすることにも、通いの場への参加を促している。

今後は昨年度導入した緊急通報装置の利用促進により、見守り体制の強化に努める。②持ち物の整理や葬儀の在り方など、高齢者に考えておくべきポイントをまとめた冊子を配布することとしている。地域包括支援センターや出前講座を通じてその活用方法も含め周知啓発に取り組み、一人一人が充実した人生を送れるよう支援していきたい。



固定型緊急通報装置